

事実と自分の意見を区別して、まとまった文章を書くことができるようにしましょう。

★次の文をそれぞれの場合に当てはまるように、言葉を付け足したり書き直したりしましょう。

一次の①から③の場合に当てはまるように、文末を

から選んで書きましょう。

最近では、読書好きな子どもが増えてきた。

① 自分の意見である場合

最近では、読書好きな子どもが増えてきた

□

② 友だちから聞いた場合

最近では、読書好きな子どもが増えてきた

□

③ 本などで調べた場合

最近では、読書好きな子どもが増えてきた

□

- ・そうだ
- ・と思う
- ・と聞いた
- ・のではないか
- ・と言っていた
- ・と感じる
- ・（～によると）
- ・このことである

二次の①・②の場合にあてはまるように、文を書き直しましょう。

本を一日に三十分は読む。

① 読み手に呼びかけるとき

□

② 自分が決意したとき

□

〈答えの例と解説〉

一 ①と思う・のではないかと感じる②と聞いた・と言っていた・そうだ③そうだ・このことである

☆「～そうだ」は、自分の意見ではないことを伝える文末です。自分の考えなのか、聞いたことや調べたことなのかを区別して書くことは大事なことです。普段から意識して書くようにしましょう。

二 ①みなさん、本を一日に三十分は読むようにしましょう（しよう・しませんか）。

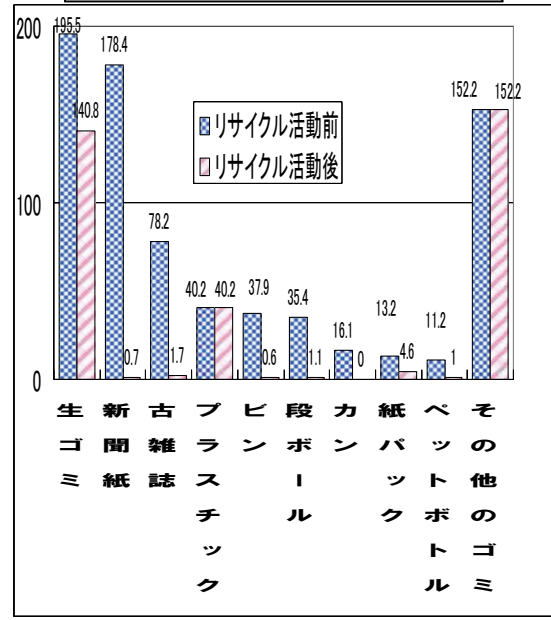
②わたしは、絶対に本を一日に三十分は読むことにしました（読みます・読むことに決めました）。  
☆伝えたいことを読み手にはっきり伝えるように、文頭や文末を工夫して書くようにしましょう。

「じっくりしつかりくり返し」の九ページを参考にしてください。

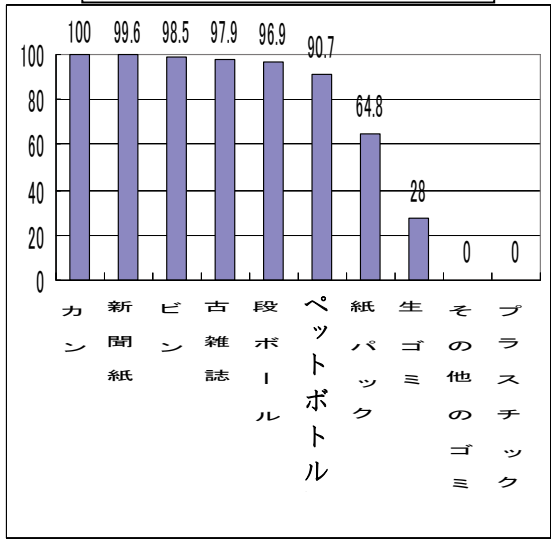
事実と自分の意見を区別して、まとめた文章を書くことができるようにしましょう。

★次のグラフを見て答えましょう。

① リサイクル活動をする前と後の家庭ゴミの量の変化 (g)



② 家庭ゴミのリサイクル率 (%)



- 一 ①のグラフを見て、気付いたこと、分かったことを書きましょう。(か条書き)
- ニ ②のグラフを見て、気付いたこと、分かったことを書きましょう。(か条書き)

(例) リサイクル活動前と後を比べると、新聞紙の量が一番減っている。

(例) カンは百パーセントリサイクルされている。

三 一・二をもとに、あなたの意見(考えたこと)を書きましょう。

Vertical dashed lines for writing answers to the questions above.

☆ 意見文等を書くときに、グラフ等の資料から分かる事実を自分の意見の根拠として使う場合があります。データをいかに読み、いかに活用できるかが大事になってきます。そこで、ここでは、グラフを読み取り、そこから自分の意見（考え）をもつための学習をします。



☆グラフを讀むときは、何を表しているグラフなのか、題名をきちんと確認しましょう。

- 一 例
- ・ カンはすべてリサイクルされているが、プラスチックは全然リサイクルされていない。
  - ・ 新聞紙・古雑誌・ビン・段ボール・ペットボトルは、ほとんどリサイクルされていて、リサイクル後はOグラムに近い。
  - ・ 生ゴミはリサイクルしてもあまり減らない。
- ☆グラフから分かる事実が書かれていればよいです。
- 二 例
- ・ カンは百パーセントリサイクルされている。
  - ・ カン・新聞紙・ビン・古雑誌・段ボール・ペットボトルの順にリサイクルされている。
  - ・ プラスチックは全然リサイクルされていない。
- ☆グラフから分かる事実が書かれていればよいです。

三 例 ① 生ゴミは、考えていたほどリサイクルされていない。しかし、毎日必ず出るものだから、生ゴミ処理機で肥料にするなどのリサイクルを今よりもっと進めると、リサイクル率が上がり、ゴミ全体の量が減るはずだ。

※グラフから分かる事実

※自分の考え

また、生ゴミを減らすことも大事なことだ。私は、好き嫌いをして残すことがある。だから、生ゴミが少しでも出ないように、好き嫌いをなくしたいと思う。

※事実 ※自分の考え

※自分の考え

また、買ったのを忘れてしまって、腐ってしまったことがある。そんなことがないように、賞味期限を確かめておくことも大事である。

② ※グラフから分かる事実

※自分の考え

紙パックのリサイクル率は約六十五パーセントである。もともと、リサイクルできないだろうか。私たちの学校では、牛乳パックのリサイクルをしている。前は、給食室に返すだけだったけど、数年前から、飲み終わったパックを開いてあらってかわかしている。そうすると、ファイルになったり、つくえの中に入れる紙の引き出しになったりする。

※事実

※事実

私の家でも同じように牛乳パックのリサイクルで、スーパーの回収ボックスに入れている。全部の

※自分の考え

家でもリサイクルすると、ますますリサイクルが進んでよいと思う。

☆事実（グラフや自分の経験、聞いたことなど）から、自分の考えを導き出して書けるとよいですね。

「じっくりしっかりくり返し」の九ページを参考にしてください。

小学校五・六年生「書く」ワークシート③

名前

事実と自分の意見を区別して、まとまった文章を書くことができぬようにしています。

- ★自分の生活やまわりの様子をよく見わたしましょう。「こうだったらいいのにな。」と思うことはありませんか。そのことを、自分の意見として文章にしてみましよう。
- 一 気付いたことをあげましょう。(事実)

(例)図書室の本を借りる人が少ない。

- 二 そのことについてどう思うか書きましよう。(意見)

(例)もっとみんなに図書室の本をかりてほしい。

- 三 そのためにどうしたらよいか考えてみましよう。(意見)

(例)図書委員が、毎月おすすめの本をしょうかいしてはどうか。

- 四 一〜三をもとに、意見文を書きました。 [ ] にふさわしい文章を入れましよう。

わたしは図書委員の仕事をしていて、気付いたことがある。それは、  
[ ]  
ということだ。休み時間に貸し出しの仕事をしているが、本を借りていく人はいつも数人だ。  
わたしは、  
[ ]  
と思う。本を読むことで、いろいろなことを知ったり、考えたりすることができるところだ。  
そこで、  
[ ]  
よいのではないかと考えた。毎月、低学年と高学年それぞれに読んでもらいたい本の内容を、  
ポスターにして、校内にはりだすというのがいいのではないか。そうすれば、その本に興味  
をもち、借りてみようと思う人が出てくるのではないかと思う。

四の例

わたしは図書委員の仕事をしていて、気付いたことがある。それは、

※事実

※事実

りる人が少ないということだ。休み時間に貸し出しの仕事をしているが、本を借りて

※自分の意見

いく人はいつも数人だ。わたしは、もっとみんなに図書室の本を借りてほしいと思う。

本を読むことで、いろいろなことを知ったり、考えたりすることができるからだ。

※自分の意見

そこで、そのためには図書委員がおすすめの本をしようか考えた。ポスト

※自分の意見

かと思った。毎月、低学年と高学年それぞれに読んでもらいたい本の内容を、ポスター

※自分の意見

にして、校内にはりたすというのがいいのではないか。そうすれば、その本に興味を

もち、借りてみようと思う人が出てくるのではないかと思う。



☆ 自分の意見を人に伝える文章を書くときには、事実と意見を区別して書くことが大切です。

事実を根拠として、自分の意見に説得力をもたせるようにします。

また、文末表現に気をつけて、書き分けるようにしましょう。

〈事実を書くときの文末の例〉

・～だ。～である。(断定)

・～そうだ。～と聞いた。(伝聞)

〈意見を書くときの文末の例〉

・～と思う。

・～と考える。

・～のではないか。

「じっくりじっくり返し」の九ページを参考にしてください。

名前

事実と自分の意見を区別して、まとまった文章を書くことができるようになっていきましょう。

みなさんは、文章を書くときに、事実を書くか、自分の意見や考えを書いているのか、考えながら書いていますか。

次の文章を読んで、事実について書いてある文なのか、自分の意見や考えを書いている文なのか考えて、次の問題を解きましょう。

**文末の表現に  
注目しよう！**

世界には、貧しく、一日一日の暮らしにも困っている子どもたちがたくさんいる<sup>①</sup>と思う。

わたしはその子どもたちを直接助けることはできないが、できることがあったら、何かをしたい<sup>②</sup>と思う。

ある国では、その日に食べるものを得るために<sup>③</sup>山からお金になるものを探している子どももいるそうだ。もちろん学校にも通えず<sup>④</sup>にいる。

…(中略)…

そこで、何かわたしたちにできることはないだろうか<sup>⑤</sup>と考えた。インターネットでいろいろ調べてみたら、ユニセフを通じた活動があることが分かった<sup>⑥</sup>。さまざまな活動がある中で、自分たちが<sup>⑦</sup>できることは何なのか、クラスみんなで相談しようと思う。

(基礎学力定着プログラム達成目標と例題九ページ上段一部参照)

一 ①②はどちらも「〜」と思う。「〜」という書き方をしています。

二 ③④⑤⑥⑦は事実について書いているのか、自分の意見や考えを書いているのか考え、□の中に番号を書きましょう。

①  
・  
②

☆事実について書いている文

☆自分の意見や考えを書いている文

みなさんも文章を書くときは、文末の表現に気を付けて書きましょう。



日頃の子どもたちの作文を見ると、文末を意識せずに書くことが多く見られます。その中でも、「〜と思う。」を安易に使う例が多々見られます。そこで、今回は、**文末を意識して**、事実と自分の意見を書き分けるための学習を組みました。

②

☆ ①は事実を述べるべきなので、文末は「たくさんいる。」と言い切る形にするか、「たくさんいるそうだ。」「たくさんいると聞いた。」などと、人から聞いたり、本で読んだりしたことが分かる形にします。

☆ ②は、事実に対して、自分はどうしたいかを述べるので、「〜と思う。」とします。その他、「すべきなのではないか。」等、自分の主張をしてもよいでしょう。



二 事実について書いている文・・・③④⑥  
自分の意見や考えを書いている文・・・⑤⑦

☆**事実を述べる**ときは

- 聞いたことや調べたことを述べる
- 「〜だそうだ。」 「〜らしい。」
  - 「○○によると、〜ということである。」
  - 「〜と記されている。」 「〜だと聞いた。」 など
- 確かな事実を述べる
- 「〜である。」 「〜してしまった。」 など

☆**意見を述べる**ときは

- 「〜だろう。」 「〜だと思う。」
  - 「〜なのではないか。」
  - 「〜と考える。」 「〜したい。」 「〜すべきだ。」 など
- がありますが、自分の思いに合わせて意識して使い分けられるようにしていきましよう。



「じっくりしっかりとくり返し」の九ページを参考にしてください。

名前

事実と自分の意見を区別して、まとまった文章を書くことができるようにしましょう。

★次の文中には、どちらの言葉が入るでしょうか。合う言葉を（ ）の中に書きましょう。

<p>一</p> <p>「へ」 か 「を」</p> <p>①どこに行くのか、行き先を表す場合。 ・わたしは、アメリカ（ ） 出発した。</p> <p>②どこから動き出すのか、その場所を表す場合。 ・わたしは、アメリカ（ ） 出発した。</p>	<p>二</p> <p>「が」 か 「で」</p> <p>①望んでいるものは、何かを表す場合。 ・朝食は、パン（ ） いい。</p> <p>②それでもいいと思うものを表す場合。 ・朝食は、パン（ ） いい。</p>	<p>三</p> <p>「も」 か 「だけ」</p> <p>①自分が予想した以上を表す場合。 ・返事が来るのを、三日（ ） 待った。</p> <p>②自分が決めた数や物などを表す場合。 ・返事が来るのを、三日（ ） 待った。</p>
<p>四</p> <p>「まで」 か 「までに」</p> <p>①ある事がらが続く時間を表す場合。 ・五時（ ） 勉強する。</p> <p>②ある事からの期限を表す場合。 ・五時（ ） 勉強する。</p>	<p>五</p> <p>「と」 か 「か」</p> <p>①両方とも同じぐらいの望みを表す場合。 ・もも（ ） いちごを食べた。</p> <p>②どちらかを決めていない場合を表す。 ・もも（ ） いちごを食べた。</p>	<p>六</p> <p>「を」 か 「が」</p> <p>①自分の意志を表す場合。 ・教室の戸（ ） 閉める。</p> <p>②自分の意志と関係のないところの動きを表す場合。 ・教室の戸（ ） 閉まる。</p>

★次の文のぼう線を引いた言葉で、正しい使い方をしている方に○を付けましょう。

- (一)
- ①  校庭でボールがある。
- ②  校庭にボールがある。
- (二)
- ①  校庭で二時から野球がある。
- ②  校庭に二時から野球がある。



★次の文中には、どちらの文字が入るでしょうか。合う方を（ ）の中に書きましょう。

<p>一</p> <p>「へ」か 「を」</p> <p>①どこに行くのか、行き先を表す場合。 ・わたしは、アメリカ（<b>へ</b>）出発した。</p> <p>②どこから動き出すのか、その場所を表す場合。 ・わたしは、アメリカ（<b>を</b>）出発した。</p>	<p>二</p> <p>「が」か 「で」</p> <p>①望んでいるものは、何かを表す場合。 ・朝食は、パン（<b>が</b>）いい。</p> <p>②それでもいいと思うものを表す場合。 ・朝食は、パン（<b>で</b>）いい。</p>	<p>三</p> <p>「も」か 「だけ」</p> <p>①自分が予想した以上を表す場合。 ・返事が来るのを、三日（<b>も</b>）待った。</p> <p>②自分が決めた数や物などを表す場合。 ・返事が来るのを、三日（<b>だけ</b>）待った。</p>
<p>四</p> <p>「まで」か 「までに」</p> <p>①ある事がらが続く時間を表す場合。 ・五時（<b>まで</b>）勉強する。</p> <p>②ある事がらの期限を表す場合。 ・五時（<b>までに</b>）勉強する。</p>	<p>五</p> <p>「ど」か 「か」</p> <p>①両方とも同じぐらいの望みを表す場合。 ・もも（<b>ど</b>）いちごを食べたい。</p> <p>②どちらかを決めていない場合を表す。 ・もも（<b>か</b>）いちごを食べたい。</p>	<p>六</p> <p>「を」か 「が」</p> <p>①自分の意志を表す場合。 ・教室の戸（<b>を</b>）閉める。</p> <p>②自分の意志と関係のないところの動きを表す場合。 ・教室の戸（<b>が</b>）閉まる。</p>

★次の文のぼう線を引いた言葉で、正しい使い方をしている方に○を付けましょう。

- (一)
- ①  校庭でボールがある。
- ②  校庭にボールがある。
- (二)
- ①  校庭で二時から野球がある。
- ②  校庭に二時から野球がある。

「じっくりしっかりとくり返し」の九ページを参考にしてください。

名前

目的に応じて、様々な様式の文章を書くことが出来るようになってほしい。

★自分の係の活動報告書（一学期）を書くためのメモを書きましょう。

一 係の名前

二 活動計画…初めの係活動で、一学期にどのような活動をしていく計画を立てましたか。

四月…

五月…

六月…

七月…

三 活動報告…実際に行った活動を書きましょう。

・計画通り行われた  
・行わなかった

《文末の書き方》  
―をした。  
―ができた。

四月…

五月…

六月…

七月…

次のページへ続く